

あいち病害虫情報 最新情報

平成26年8月18日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

暑さは平年並の見込み

8月14日名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば、向こう1か月は平年と同様に晴れの日が多く、気温、降水量とも平年並の確率40%、日照時間は少ない確率40%と見込まれています。

ほ場での病害虫の発生状況をよく観察し、的確な防除を心がけましょう。また、作業は朝夕の涼しい時間帯に行うなど、健康管理に留意しましょう。

斑点米カメムシ類に注意！

斑点米カメムシ類の発生量は、8月上旬の調査においても、水田内、畦畔雑草ともやや多い状況が続いています。特に、ミナミアオカメムシの水田内での生息数が多く、予察灯における誘殺数も過去最多となっているため、今後も引き続き多発が予測されます。本日発表の「平成26年度病害虫発生予察注意報第4号」を参考に、適切に防除しましょう。

ウンカ類

セジロウンカの水田内での発生量は、やや少ない状況です。

トビイロウンカについては、8月上旬の調査で水田内での発生を確認しました。トビイロウンカは、同一ほ場内でも場所により生息数に大きなばらつきがありますので、ほ場全体を注意して見回り、発生を確認したら収穫前日数に留意して薬剤防除しましょう。

ダイズのおオタバコガに注意！

ダイズでは、おオタバコガの発生が一部地域で多い状況です。ほ場での発生に注意しましょう。防除については、7月16日発表の「平成26年度病害虫発生予察注意報第3号」を参照してください。

ダイズほ場でのハスモンヨトウの発生量及びフェロモントラップにおける誘殺数は、やや少なく推移していますが、ほ場で白変葉を確認したら早めに防除しましょう。

果樹カメムシ類

果樹カメムシ類の餌となるヒノキ球果の口針鞘数から、果樹カメムシ類は既に山から離脱を開始していると推測します。また、平坦部に設置したチャバネアオカメムシの予察灯及びフェロモントラップにおける誘殺数は、やや多い状況です。一方、今年はヒノキ球果量がやや少なかったため、8月上旬以降に発生する新世代成虫の量は、越冬世代成虫に比べやや少なくなると予測します。しかし、今後の天候によっては飛来量が一時的に増加することもあります。ほ場をよく見回り、飛来を確認したら適切に防除しましょう。

果樹の病害虫

チャノキイロアザミウマの粘着トラップにおける誘殺数は、南知多町、蒲郡市ともにやや少ない状況です。第6世代成虫の発生ピークは、名古屋8月27日、愛西9月1日、豊田、蒲郡9月2日、南知多、伊良湖9月3日、岡崎、豊橋9月4日、新城9月9日、稲武における第4世代成虫の発生ピークは、8月26日と予測します（8月17日までの実測値で計算）。ミカン果頂部が加害される時期ですので、発生ピーク予測を参考に防除しましょう。

ナシヒメシンクイのフェロモントラップにおける誘殺数は、豊田市のモモでやや多い状況ですが、その他の地域では平年並からやや少ない状況です。ナシでは果実が熟してくると成虫の飛来が多くなります。収穫前日数に注意して薬剤防除しましょう。

ナシ黒星病の発生ほ場では、来年の伝染源にならないよう被害落葉の処理を徹底し、収穫後の防除をしましょう。

ブドウべと病は、曇雨天が続くと急激にまん延します。発生に注意し、防除を徹底しましょう。

野菜・花き類はチョウ目害虫に注意！

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、平年に比べてやや多い状況が続いています。キクでは例年、9月になってから本虫による被害が増加しますので、引き続きほ場での発生に注意しましょう。防除については、7月16日発表の「平成26年度病害虫発生予察注意報第3号」を参照してください。

シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数が多い地域があります。ほ場での発生に注意しましょう。

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、やや少ない状況です。ただし、例年8月から9月にかけて発生が増加します。ほ場周辺のサトイモやダイズ畑での発生状況を参考にするなど、ほ場での発生に注意し、適切に防除しましょう。

アブラナ科野菜は、発芽、定植直後にハイマダラノメイガに被害されると、被害が大きくなります。播種時や定植時に薬剤散布するなど、初期被害を防ぎましょう。

今後、晴れの日が多い見込みで、チョウ目害虫の繁殖に好適な環境が続くと予測されます。発生が急激に増えることもありますので、ほ場をよく観察して、発生に注意しましょう。アブラナ科野菜の育苗では、防虫ネットを設置して成虫の飛来を防ぎましょう。

トマトのタバココナジラミ

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミの本ぼへの侵入を防ぐために、定植前に施設開口部に防虫ネット（目合 0.4mm以下）を設置するとともに、施設内での発生に注意して、早期防除に努めましょう。

- 農薬危害防止運動実施中（6月1日から8月31日まで）
今年度の重点事項は次の3つです。
 - 1 農薬ラベルの十分な確認
 - 2 農薬の飛散防止
 - 3 農薬の盗難・紛失等の防止
- 農薬を使用する前に、ラベルの内容をよく確認し、使用方法を守りましょう。
- 農薬の飛散防止に努めましょう。
- 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 暑い時期です。作業中に熱中症にならないよう注意しましょう。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 FAX 0561-63-7820